

第2回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

日 時：令和2年2月3日（月）13:15～16:30

場 所：八幡平市役所3階大会議室

参加者：別紙のとおり

発言者	発言内容
事務局	開会の言葉
市長	<p>【あいさつ】</p> <p>前回第1回を踏まえ、今回素案としてまとめた。本年度もう一度有識者会議を実施し、八幡平市の第2期総合戦略を策定していきたいと思っている。委員の皆様には積極的な意見交換をお願いする。</p>
会長	<p>八幡平らしい季節になった。まち・ひと・しごとの総合戦略の第2回の打ち合わせであり、ビジョンの素案と、5年前と前回策定からの人口がどう変わったのかも含めて議論したい。</p> <p>個人的には人口ビジョンは長期の視点で欲しい、あるべき人口で欲しい人口であり、総合戦略はその人口に向けて何をするのかを定めるものと考えている。検証して5年間のロールモデルの中であるべき姿を作るための長い作業である。</p> <p>なかなか成果が見えづらいものもあるが、長期の視点で考えてほしい。今から30～40年後を見据え2040年の八幡平を見据えて、議論を進めてほしい。</p>
会長 事務局	<p>【議事：人口ビジョンについて】</p> <p>第1の人口ビジョンについて、事務局から説明をお願いする。</p> <p>まず、人口ビジョンの改定について、方針をお示しする。2040年の目標値1万8,800人に対し、どのような現状になっているかを説明する。初めに人口の推移。人口を、年少人口と生産年齢人口、老年人口に区別し、人口総数を折れ線グラフで示している。年少人口の減少は少し抑えられているものの、生産年齢人口は大幅に減少している。老年人口は増えている。自然増減の状況をグラフで見ると、人口は減少の傾向が進んでる。理由は、出生数の減少と死亡数の増加。年毎に減少数が増加しており、死亡数は平成30年に過去最高を迎えた。出生数と結婚組数については、結婚組数が昭和60年以降減少しており、結果として出生数が年々減っていると思われる。表6の15歳から39歳までの年齢の増減をみると、平成27年から平成30年にかけて女性の人数が減少していることが顕著にわかる。社会増減についても減少傾向が続いている。最近は回復傾向も見えるが、楽観視はできない状況。平成29年と平成30年は転出者が減っており、増減は三桁のマイナスから二桁のマイナスに抑えられている。</p> <p>市では、平成25年の人口をもとに2040年の目標値を18,800人にした。最新（平成30年）の社人研推計では2040年の人口は14,684人に下方修正され、現在、平成</p>

<p>会長</p> <p>事務局</p> <p>会長</p>	<p>27年の目標値 26,527 人に対し実績は 26,355 であり△172 人がマイナスとなり、現実と目標値に乖離が出てきている。このような状況ではあるが、人口ビジョンは長期的な目標であることから 2040 年の目標値は 18,800 人に据え置く。その目標値に向かってどういった施策をしていかなければならないのか、総合戦略で展開していきたい。</p> <p>今回の第 2 期では人口ビジョンの更新はデータの更新等に留めるということで、社人研による推計値が下方修正された事実から目標達成には一層の対策が求められている。予想以上に、2010 年を境に八幡平市は頑張っていると感じている。とはいえ、生産年齢人口を見てみると、人口推移の中カーブがきついま状況が良くない。一方、年少人口・老年人口はなだらか。生産年齢人口の減少が多いのは、理由は市としてはどう考えているか。</p> <p>生産年齢人口の減少は、高齢化が一つの要因だと考えている。市の人口構成の中でもボリュームの多い層が生産年齢人口から高齢人口となったためと推測される。市内の企業を見てみると、なかなか人材の確保が出来ていない。一般論であるが東京圏では人手不足が続いているといわれ、そこに引っ張られていると考えられる。</p> <p>お手元資料の 2 ページ、表 6 を見ると、40 歳～50 歳の厚みが少なくなってきている。ここが 5 年過ぎると、もう少しで老年人口になってしまう。その対策を考えないといけない。ひとつのキーワードになる。年少人口は横ばい。出生数等も横ばい。2005 年くらいを起点にカーブはなだらかになってきている。平成 26 年、平成 27 年に出生数が増えたのは平成 25 年の結婚数が増えたことが要因と考えられる。結婚数を増やすと、出生数につながって、将来的に生産年齢人口が増えていく。</p> <p>社会増減の減少は最近抑えられている。1985 年、2000 年にかけて社会減が進んだ。バブル崩壊後の悪い流れから平成 28 年に揺り戻しがあり、現在は収まってきた。今後どう増加にできるかがポイントである。社人研の推計は新しいものできている。こうならないように施策を頑張る。目標値は下げないとのことで進めたい。</p>
<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>【議事：総合戦略について】</p> <p>総合戦略素案についての説明をお願いします。</p> <p>事前配布資料 2 について。6 ページの数字一部修正があったため、当日配布資料をご確認いただきたい。修正を赤字で記載している。</p> <p>初めに全体の構成については、追って記載することとします。方向性は、第 1 期の総合戦略を踏襲していくという内容。その中で実際に動かなかった施策、さらに発展させていく施策を盛り込んでいく形で策定する。</p> <p>まず初めに、国の方針を入れており、多様な働き方が出てきているなど、大学と企業連携など、新しい動きが出てきて成果が出ている一方で、人の分野において一極集中の改善が見られていない。特に東京圏に一極集中している状況。地方に起業するなど都市部の方が地方に貢献する仕組みをつくることを国でも推進するといったことを記載している。</p> <p>3 ページ以降は現状の考察。人口ビジョンでの説明を再掲する。4 ページの (5)、</p>

(6) について、関係人口の拡大についても記載している。5 ページについては、アンケート調査結果を基にした産業の現状などを記載している。

6 ページからは第 1 期の振り返りを入れている。4 つの基本目標と 17 のプロジェクトを掲げ人口減少対策を行ってきたが、平成 27 年から平成 30 年の人口動態を見ると、人口減少が進んでいる。社会増減についても少し改善は見られたが、一時的である可能性も高いので、注視が必要。各施策の KPI では、達成できなかった分野などについては、PDCA サイクルを回すことで結果を出していきたい。17 のプロジェクトは達成、未達成、実施できなかった等を評価し振り返っている。

7 ページ以降、実施した市民アンケートの結果と現状を考察。大きなポイントは若年層への街への誇りと愛着、いわゆるシビックプライドが低く、醸成が必要であること。なお、アンケートは無作為に抽出した市民 3,000 人を対象とし、回収率は 30% ほどであった。シビックプライドを年代別に見ると 30 代のところで、愛着がかなり低くなっている。この親世代の愛着の上昇が必要。エリア別では各地域で反応が違い、地域に合わせた環境作りが重要。各地区に応じた施策をすすめる必要がある。

8 ページの出生率の向上に繋がる環境づくりでは、実際の子供の数と理想の数を比較すると、実際にはもっと欲しいことが分かった。必要な支援は、給付金の充実、託児環境、産科などの充実であった。賃金の向上は市内企業様に努力してもらう必要があるが、環境面にも支援を欲する回答があった。八幡平市は子育てがしやすい市であるかについては、未就学児の親の世代からは 52.9% と比較的高い評価を得ている。一方で安代地区の満足度が低い。意識や実態を深堀することを目的に、未就学児を持つ親を中心にインタビュー調査を実施しており、満足度の高い要因は支援の充実、少子化のため個々の教育を大切にしていることが、八幡平市が子育てしやすい意識につながっているとのことだった。このようなことは、子どもを持つ前の世代にもアピールしていく必要があると考えている。一方、子どもが遊ぶ環境、学ぶ環境、母親が集まれる場所がないなど、コミュニティについては不満があり対策が必要と考えられる。

9 ページは、地元企業についての調査結果に基づく考察。人材獲得に苦勞されている現状があった。それぞれの企業が努力するだけでなく、行政としても支援をしていく。

10 ページについては、観光交流人口や関係人口増加につながる魅力の強化が必要と記載している。

11 ページには、フリーランスや多拠点居住者などが八幡平市に集まってきているという状況が出てきており、そのような方々と共存できるようなまちづくりをしていくことで、持続可能な街づくりにつながるといったことについて記載をしている。また、地域活力の維持増進や健康維持を継続していく。広域連携、官民連携、プロモーションを強化した効果的なまちづくりも引き続き進めていく。

当日配布資料 2-1 では、課題とプロジェクトの関係性を示した。課題と 13 のプロジェクトを線で結んでいる。課題が複数のプロジェクトに関わることで分かる

おり、各プロジェクトを連携させて課題解決を図っていききたい。

上記を踏まえ、第2期の方針と基本目標を示している。基本目標4つは1期と変えず、より分かりやすくするために、4本の柱を設定した。「1. 八幡平市で働く」「2. 八幡平市で育てる」「3. 八幡平市で暮らす」「4. 八幡平市に人を呼び込む流れを創る」である。また、第1期同様に国と県の総合戦略を勘案する。基本方針が変わらない為、素案の14、15ページは基本的に変わっていない。プロジェクトについては、似たようなプロジェクトを統合整理した。この後13のプロジェクトについて説明するが、当日配布資料のスライド4で柱とプロジェクトの関係を示している。当日配布資料の最後のスライド5には、第2期総合戦略を進める上で重視する視点を記載しており、国あるいは県が重視する新たな視点を記述している。重視する新たな視点は、具体的な施策というより全般にわたる考え方であり、今後施策が具体化してきた段階で改訂という形で表していく。

素案18ページの①八幡平市の農のブランド強化プロジェクトについて、第1期は産業全般をまとめていたが、第2期では農業に特化する。なお、SDGsに関するプロジェクトについては、該当するSDGsの目標を右側にアイコンとして記載している。

プロジェクトの②については、農業と関連するが、地熱エネルギーに焦点を当てている。

19ページの③人材強化プロジェクトは、農業以外の産業に特化して記載している。特に、金融機関や大学との連携はこちらに集約した。既に動いているものもあり、新たに進めるものと合わせる。

20ページの④若者等定住促進プロジェクトは、若者の動向、働き方動向を勘案する。

21ページ、⑤子育て支援プロジェクトと⑥出会い・縁作りサポートプロジェクトは、第1期から引継ぎで進めていく部分になる。

22ページ、⑦全世代活躍の協働のまちプロジェクトは、移住促進だけでなく、地域のみなさんが活躍できるまちづくりを進めるという考え方。多世代、多国籍の交流機会づくり、場づくりを進めていくものである。

23ページ、⑧市民の八幡平市への誇りと愛着醸成プロジェクトは、地域の魅力を再発見、再認識するというもの。シビックプライドの醸成に関する内容となる。

24ページの⑨地域拠点(小さな拠点)等活性化プロジェクト及び25ページの⑩広域連携強化プロジェクトは第1期から引き継ぐ取り組み。

26ページ、⑪観光客おもてなし強化プロジェクトは、農(みのり)と輝(ひかり)の、輝(ひかり)の部分である。観光分野の施策、具体的にはインバウンドの集客等の内容を盛り込んでいる。

27ページは⑫広域スポーツイベント・合宿の拠点づくりプロジェクト。第1期から引き継ぐものであり、体育施設や、スキー場といった資源を活用して人を呼び込むという内容。

	<p>28 ページは、⑬多様な働き方、暮らし方を受容した新しい街づくりプロジェクト。目指すところは若者の定住化促進であり、他プロジェクトと重複する内容もあるが、二拠点居住や新しい働き方、暮らし方をする方の受け入れを推進することによって、活性化を図るものである。</p> <p>以上が全体の構成であり、振り返りと課題を明らかにしたうえで、引き継いだ第1期の基本目標に向かって施策を展開していく作りとなっている。</p>
会長	<p>4つの柱とそれに伴うプロジェクト。かなりボリュームがあった。アンケートの調査結果を取りまとめた立場で印象的なものがあったら説明いただきたい。</p>
事務局	<p>調査の中で感じたことは、定量で見ると若年層のシビックプライドが低いのに対して、子育て世代は子育てしやすい街で愛着があること。ギャップがある。シビックプライドを向上させることが出生率をあげる有効な打ち手になると考える。未就学児を持つ層では子育てしやすい。小学校は人数が少ない分1人のサポートが手厚い。そこに八幡平市のカギがある。</p>
会長	<p>市民アンケート調査報告書で、20 ページの部分が気になった。最後の地域おこし協力隊から4つぐらいの項目。地域の人が距離感をもって接してくれる。モノ作りのレベルは高いが、売ろうとしていない。販売戦略が足りない。このことについて、委員に補足いただきたい。</p>
委員	<p>お話あったが、外から入ってきた若年層は、未就学児童の育成サポートが厚く、市の補助が他より充実しており、満足している。多様な人材を受け入れるといったところも他のところに比べて敷居が低い。一方で、外に伝える力、方法の検討は必要かと思っている。足を引っ張るとか出る杭を打つみたいなのは他より少ない。自分次第でやりたいことができるということを伝えられると良いと思う。移住してきている人やSNSを使った発信は有効だと思う。外国人に対しても、八幡平市の人の生き方、働き方、暮らし方を発信していくことも効果があると思う。</p>
会長	<p>素案の4 ページ。大きなキーワード。定住人口に加え、関係人口の観点からの記述も入ってきている。第2期総合戦略では、魅力を伝えるだけでなく旅行など体験してもらおうのが関係人口の目的。地域おこし協力隊の外からの視点や、全国展開している事業者の視点は八幡平市にとって貴重な視点。問題提起を行なっていただくことが重要。</p> <p>6 ページ。第1期のまちひとしごとの成果の定量評価。基本目標の3, 4 が良くない。コンパクトの街づくりにより持続性を高める。力をいれるべき。この部分の具体的な見直しが必要と考えている。八幡平市はこどもの遊び場がないといわれる子育て環境についての議論をさせていただきたい。</p>
委員	<p>子育て環境に関しては変わっていないというイメージ。</p>
委員	<p>まだ、これからといった印象。すぐには変わらない。やろうという意識がないといけない認識。</p>
会長	<p>シビックプライドについて、アンケートでは若い世代が低いことが分かった。30代が一番低くマイナス13.5。特に問題なのは「自分の子供にこのまちに住み続けて</p>

委員	<p>欲しいと思うか？」がとても低いこと。60～70代は高いが、ほかの若い世代がとても低い。地区別では、安代地区が特に低い。学校教育はどうなのか。PTAの方からご意見を頂きたい。</p> <p>小学校のPTA会長をしている。教育の面は大変サポートいただいているという認識。しかしながら、学力は高いわけではない。中学校まで子供たちが学校に通っていくことに対し、先生たちは一生懸命にサポートしてくれている。教育振興運動が盛んで、地域を越えて保護者の方々も様々な活動をされている。ただ、スポーツ少年団で忙しいのに、地域のお祭りや教育振興運動などがあると非常に大変。30代の愛着が低いのは、それで疲れてしまっているのかもしれない。他だったらと思ってしまうのかも、と感じた。</p>
会長	<p>平舘高校の指標の中で、生徒数、県内就職率など前回までは好調だったのに、30年の指標はCに下がってしまった。学力の問題か、18歳くらいの生徒の心情はいかなものか。コメントをいただきたい。</p>
委員	<p>生徒数217名がCとなっている。今年度は8クラスだが、来年度は各学年2クラスで6クラスになる。2年後は240名。他がAになっているが、そもそも以前からCだったのではないか。県内就職率については、前回もご説明したが決して減っているわけではない。今年度は市内企業の協力のもと2年生インターンをやっている。かなりの生徒数が就職していて、今年度は上がっている。市からは教育振興会ということで、補助金で協力を頂いており、本校の活性化にとって、大変ありがたく思っている。来年度からは、国際交流、部活動の支援、大学進学への支援、市外からの通学者への支援を検討いただいている。県外受験という方法を取り入れ始め、問い合わせもある。授業料については、就学支援金でほぼ無償化が出来てきている。ただ、どうしても家庭にお支払いいただく会費がないと学校運営が出来ない状況。月に8,000円で10か月。年度初めに教材費等、費用4万～5万をお願いしているが、実際にはその年初のお金が払えない家庭が増えてきている。保護者の働く環境を整えていただくとうありがたい。</p>
会長	<p>産業界では岩手県内だけでなく、八幡平市は秋田青森など県外からの雇用を確保すべきといった調査結果もあった。市内企業の雇用確保を考えれば、この流れ考え方があってもよい。学校運営費用については、ふるさと納税などの手法もある。しっかりと考えていきたい。</p> <p>第2期では新しい考え方でSDGs、Society5.0などの考え方も入ってきた。誰一人取り残さない、どの地域も取り残さないといったこともある。これを踏まえた総合戦略になっている。第4次産業革命、AIが人間の能力を超え従来の仕事のうち7割くらいがなくなり、新しい仕事生まれる。八幡平で働く魅力を出す必要がある。スパルタキャンプなど他にはないプロジェクトも目立ってきている中で、まちの人事部についての説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>市内企業へのアンケートやヒアリングで、人事部門、総務部門、採用について苦労していることがわかった。こういった問題を支援する仕組みを作れないかということ</p>

<p>会長 委員</p>	<p>ところで検討してきた。企業の魅力を十分にPRできてない、就職希望者にアプローチがあまりできていない、といった市内の企業に行政として採用を支援していく「まちの人事部」を立ち上げたい。さらには、採用の同期がないといったこともあり、せっかく八幡平市に就職してくれた方を大きな枠組みで、新人研修や入社式など一つの会社とみたとサポートできたらどうかと考えている。市内の企業に声がけて、取り組む方向。全国的にみても、採用支援を行っている所はあるが、研修などを含めると新しい取り組みにできると考えている。</p> <p>他にも産業界の人にもお話を聞きたい。</p> <p>農業をする人を支援してほしい。人数が足りなくて、たいそう困っている。新規就農者支援しているが、人口が減っているのに農家の数を維持して意味があるのか。昨年は大暴落の被害を受けてお金がない。新しい人でなく、今いる人を手厚くするべき。仕事はたくさんある。岩手県は県内消費が無理で関東に送る必要がある。冬は農業ができないので通年でできない。なるべく通年で雇ってあげたいが費用も大変。外国人の受け入れもしたほうが良い。働く人がいないのをどうにかしないことには始まらない。</p>
<p>市長</p>	<p>新しい制度が6月に施行され、地域に人材派遣業をする会社を作るといったものがある。夏場は農業をして、冬場には他の仕事をする人を地域会社で採用するといったもの。全国で80カ所実施予定。人をうまく回してくれるものと期待している。様々な会社で人材をシェアするようなもの。国は農協以外でやってくださいとあるが、現実には簡単にはできない。対応できる組織をつくれるとチャンスはある。</p>
<p>会長</p>	<p>生産年齢人口が減っている中で、農地の面積は変わらない。人手が足りない。農閑期はどうするのか。限りある労働人口で生産性を上げていくしかなくなる。他の仕事経験できれば、自分にあった仕事を見つけられる。よって繁忙期に合わせて人をシェアできるのは良いこと。地域の生産性をどうあげられるかも視点として必要。</p>
<p>委員</p>	<p>まちの人事部に関連して、商工会でも今年の4月に企業さんの合同の入社式を行うことを検討している。昨年も市内の事業者さんの交流のイベントとかも実施した経緯がある。入社式と連動していけたらよい。もし雇用のミスマッチが見つかるなら、別の会社への異動もある。地域で労働力を囲うことができると良い。市内で人材を共有するとかは青年部で話している。</p> <p>三世代交流に支援がある。民生委員さんからサポートいただいていると思う。また、平舘高校生が主体となり地熱料理コンテストをやっているのを拝見し、高校生が積極的に参加していてとても良い取り組みだと思った。担い手育成事業では、市内の企業で職業体験させている授業で2名の女子生徒がボランティアに来てくれた。そういった世代の交流が今後商工会で必要だと感じた。採用につながるような子供たち向けに企業の魅力を伝えることができると良いと感じた。</p>
<p>会長</p>	<p>まちの人事部は同期がない、相談する人がいない、場合によって異性交流になり結婚につながる。まちの人事部での同期のつながりは良い。</p>
<p>市長</p>	<p>合同入社式は、何としてもぜひやってほしい。福祉施設も含めた、交流して欲しい。</p>

	<p>6か月後、12か月後、1年後も研修を定期的に行ってほしい。出会いも兼ねて、何らかのアクションになるだろうと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>大項目2つめ、八幡平で育てる。八幡平市で子育て支援で不足している点はどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>子育て支援で、正式の資格のある保育士の不足を感じる。この土地にいと、外への支援もあって良いが、住んでいる人が喜びを感じるか満足をしているかが非常に重要だと感じている。八幡平市は、子どもを見る目線が温かい。八幡平市の豊かさを外に発信することも重要だが、既にその事業でやっている人、中で働いている人への補助もあるとうれしい。個人的には、よろずプラットホームをやりたい。</p>
	<p>観光と移住に求められることが同じ。全体を通して感じたことは、人がどう暮らしているか、いきいきしているかに興味が集まる時代。自分の人生を変化させたいと思ったときに、ロールモデルがあるとよい。住んだ時の体験をするツアーやホームステイなどの体験も必要。海外の人に対しても、ここでの暮らしの体験を対象にしたい。お試し居住に市民との交流を含めると活性化につながる。結果的に観光人口・居住人口が増える。ある程度長く滞在してもらおうようにすると良さが伝わり、知り合いができて、また来たいと思える。SDGsや変化に対してテーマがたくさんある街だと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>一時預かりがもっとフランクにできるもの、駅の喫茶店に預かれる場所があるなど、いろんな方法がある。市役所と民間協働で考えることが必要である。なぜ必要かという、会社員ではなく個人事業主が増えた場合に時間に規則性が無くなる。新しいビジネスを展開していくと、それに伴う環境も必要になる。サービスを考えていく流れ、それに対応した環境が必要である。交流人口や関係人口はお試し居住、お試しツアーなど、通常の観光でない滞在型の観光などを空き家など活用できると、親密性が増す。八幡平市の活性化につながるだろう。</p>
<p>市長</p>	<p>企業誘致を議論されがちだが、地場の産業のサポートが重要。例えば設備投資をするとそこに雇用が生まれる。この誘導が重要。人口が減ったとしても、そこに暮らす人に幸福感があればいいのではないかと思う。八幡平市に来れば幸せというアピールをすると自然と人は増えるのではないかと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>出会い縁プロジェクトについて、第1期にうまくいっていない理由を説明いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>出会い縁プロジェクトでは、120組やろうと思っていた。今後は趣向を変え、お見合い形式をやめて気軽に参加できることを主軸に考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>新人の研修だけでなく交流があってもよい気がする。交流会も考えてもいいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>続いて、「八幡平で暮らす」について。全世代活躍のまちづくりの大きな話題として、こういった形でハロースクールが来るのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ハロースクールのスケジュールについて簡単に説明する。岩手日報でご案内の通りだが、安比高原の旧竜ヶ森スキー場跡地にできる。令和4年の8月31日に完成予</p>

	<p>定で 2022 年 9 月 1 日には完成している状態となる。生徒は 12 歳から 18 歳の学校で、日本では小学校 6 年生から高校 3 年生の 7 年間となる。初年度は 200 人で、最終的には 1,000 人弱の生徒数確保に努めると聞いている。学校法人は各種学校の位置づけで、県から許可の決定があるはず。学生について、日本人をどの程度入学させるかは決めておらず、基本はアジアを中心にした生徒が入学になると聞いている。昨年、市長とバンコクを視察した。12 歳から 18 歳まで生徒は約 2,000 人。郊外だが賑わいがあり、施設内容が素晴らしかった。音楽の文化ホール、プール、テニスコート、体育館が立派で当地にもできるイメージが湧いた。働く方は 100 名以上になるため、なるべく市内に居住いただき八幡平市の振興につなげられるように進めたい。総合戦略へはもう少し具体的になってから追加として改訂していきたいと考えている。</p>
会長	<p>期待値は高いので是非連携を考えていきたい。高齢者の活躍は一つの課題。高齢者の社会参加についてはいかがか。</p>
委員	<p>所属する法人の設立主旨のなかにまちづくり、仕事づくり、を掲げている。放課後の児童たちとの交流をメインに、年に何度か学童クラブ、料理教室、野菜・花づくり体験がある。各企業、地区に協力いただき野菜の植え方、育て方、収穫など学び、収穫して美味しく自分たちで料理する活動もできた。市の補助金などを活用させていただきながら、地域の方のご協力を頂きながら活動を続けているところで、これからいろいろな体験、ものづくりを広げていきたい。世代を越えた交流が大切だと感じている。</p>
会長	<p>何か要望はないか。高校生との連携など。</p>
委員	<p>学童クラブを平成 23 年度から運営させていただいている。小学生だった児童が社会人になる年になった。夏休みや冬休みに遊びに来てくれる。卒業生が学童にきて子供たちを見てくれるのは本当にありがたい。今後もこのような交流をやれたらいいと思う。</p>
委員	<p>基本目標①に関して。人口減少に関わらず、介護は人が少なくなってもやめることのできない事業である。市民が将来を悲観しないように、安心して暮らせるというミッションを感じている。都市部からの福祉留学を検討している。福祉系の資格のある学生などが対象で、受け入れ場所はシェアハウスや、ハロースクールができる安比高原に泊まってもらって、帰りたくない気持ちを持ってもらう。世界的に着目されている安比の強みを生かし、移住定住を目指す。奨学金制度を利用してもらい、福祉系学生でなくても地元で希望者がいたらお試しで数年間働いてもらうなど、お互いを支える形で進められると良いと感じた。</p>
会長	<p>それ以外に何かあるか。</p>
委員	<p>コミュニティスクールについて、市内で本格的に導入され、来年度からうちの中学校も導入予定である。念仏剣舞という伝承文化があるが、中学生は忙しく、だんだん参加者が減少してしまう状況。文化を残していきたい。残っている文化として、八幡平伝承太鼓があり、幼稚園・保育園からやっている。中学校では文化祭のオープニングで恒例行事となっていたりもする。こういったものを文化祭に取り入れて、保護者</p>

	<p>以外の観覧を増やしていけると良い。市の PTA 連絡協議会で「未来プロジェクト」という名前で、二十歳を迎えた自分・家族・友達・地域へメッセージを送ろう、といった話がある。令和最初の市内小学校卒業生を対象としてメッセージカードを書き、タイムカプセルにいれ成人式で開封して思い出を共有しようという企画である。皆さんには追ってご報告できればと思う。</p>
会長	<p>子どもたちが地域の民俗伝統芸能を学ぶのは地域のアイデンティティを育てるうえで重要。シビックプライドの根幹をなす事に効果的。小学生の活動、高校はどうか。</p>
委員	<p>小学校では、地域の通学の時間に老人クラブの方がお見送りしてくれている。それに対し、年一回小学校として子ども達がお礼をしている。一方で老人クラブに入らない人が多く、老人クラブの高齢化が進んでいると会長さんが嘆いている。三世代交流を楽しみにしていない方も多くいるが、一方では、地域の方で興味を持って観覧者が少ないマラソン大会などにも来て下さる方もいる。</p>
会長	<p>民俗芸能などはどうか。</p>
委員	<p>民俗芸能は現在行っていないが、神楽など地区に残る伝承芸能はある。こども会としてやっているところもある。</p>
委員	<p>高校では地熱塾や、地熱料理コンテストなど市の取組みに参加している。長いスパンで、家政科学科の授業では、地熱染めなど連携した授業がある。コミセンのライトアップや夏のお祭りは吹奏楽部が演奏など行うといった活動がある。</p>
会長	<p>こういった活動が、シビックプライドの醸成につながっている。地域のアイデンティティを育てるうえで是非続けてほしい。他に報告する事はあるか。</p>
委員	<p>養神館の跡地に、シェアオフィスやコワーキングの施設を作ろうと検討している。スパルタキャンプの起業した人の受け皿になりたい。若い人のたまり場にしたら楽しいし、駅前でやりたい。</p>
会長	<p>民間の駅前開発があっても良い。進めてほしい。広域連携として八幡平市は、北東北の結節点秋田や青森、宮城へ流れていく受け皿。連携も深めてほしい。岩手県内だけの人材確保だけでなく北東北の拠点として受けていくといった視点も戦略に組み込んでほしいと感じる。</p>
事務局	<p>雇用だけではなく、病院の機能などの生活の基盤も連携の対象として進めたい。</p>
会長	<p>盛岡市でも都市戦略があり、周辺地域の 8 市町村と盛岡市で整備するものと同じことをしても意味がないといったもので、例えば高校卒業した学生がすぐ仙台や東京に行ってしまうので、まず地域で就業できる人口流出のダム機能が必要。公共施設のシェアなど、役割分担が必要。また、盛岡広域圏での魅力度をアップする事が必要という考え方。東京圏、世界各地から観光客、人をひきつける事を目的に進めている。</p> <p>最後に「八幡平市で人を呼び込む流れを創る」では、豊かな自然や絆を生かし新たな人が流入する流れを作るということで、スポーツ、イベント拠点づくり多様な働き方新しい働き方からシェアオフィスの考え方などが対象となる。新たな意見をお願いしたい。</p>

<p>委員</p>	<p>八幡平市の愛着のプロジェクトについて。私も神楽が好きなのだが、伝承芸能は続けることが大変だが見てみたいと思った。市民にも見る機会が欲しい。また、海外のメディアの取材で（イギリス、フランス）何を取材されたかという、日本の四季に同調した暮らし、自然に準じた暮らしについて興味があるように思えた。例えば、ネイティブアメリカン、アボリジニなどといった人々の自然崇拜の民俗性が現代の東北にも精神性に生きてるといった見方があった。八幡平市にも遺跡があり、三内丸山遺跡並みの規模である。海外の人、都市部の人を目線で非常に魅力がある。こういったところも観光のツアーにすると魅力になるし、今年度ガイドとして実施している。市民がなんともないと思っている暮らしでも、強みになるものがある。人柄なども魅力で八幡平市の強みになっている。自分たちの内向きの目線を伝えられる中間ネットワークや人をガイドとし、指導者を育成したい。市の支援が欲しいと感じている。気になった点は、在米日本人の帰国希望者がなぜアメリカ限定なのか。私のお客様はヨーロッパ、アジアの人が多く。イギリスで人材コンサルの仕事していた時に、日本に帰って住む土地を探している方がいた。その方は自然の魅力、生きる力を育てるのによい環境でみんな感激していた。イギリス時代の友人に八幡平を案内すると、感激して滞在時間が長くなる傾向があった。今度イスラエルの方が東北に魅力感じられる。その際に地元の小学生と交流を希望している。普通の暮らしを知りたいという。今あることへの支援が重要かと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>具体的に在米日本人をしたのは、今年度市の事業でチャレンジしている実績があるから。在米日本人の方で帰国を希望している方が一定数いるという具体的な数字があったので、今年度チャレンジしている。米国に限らず欧米人にも希望者がいるとすれば当然拒むという理由はない。表現を修正する。</p>
<p>会長</p>	<p>他の大事なところで、国際交流をする際には、地域のアイデンティそのものに触れてくるというような動きが今は盛んになりつつある。中国人とかはまた少し違うが、特に欧米系の方にはそういう動きがある。八幡平という魅力をもう一度考えるという点ですごく大事だろうと思う。私があちこちで申し上げている、北海道の下川町で提唱している「ワーク・ライフ・リンク」という言葉がある。今、国はワークとライフをバランス取ることを言っていますが、あれは都会の言葉であると思う。例えば、東京の丸の内に働きに行き、定時で帰って、自分の家に戻って来たときには、仕事なんか一切やめて自分の時間を作ったりする。それがワークバランスという考え方だと認識している。田舎の場合はそうではなくて、仕事と生活が一体となり、ある時は働いて、ある時は仕事してそれはごちゃごちゃになった形で、それが24時間365日回っているのが地方における一つの在り方なのかなと思う。これが更に強くなってくるのが、これからの時代だと認識している。そういったことになると、ストレスがなく、稼いでいるのか、暮らしているのかよく分からないけど、しっかりした生活があり、それには都会のように単なる貨幣経済のようなものでなく、物々交換のものもある。地域の支え合いのようなものもある。委員は縄文という風に言っておりましたが、まさにそういう所が地域特有であり、八幡平市のひとつの魅力だろうと思</p>

<p>会長 委員</p>	<p>う。昔からの山岳信仰のようなものがある。八幡平神話、昔からの遺跡があって、土偶などもあって、そういうものをしっかり評価して、古くて新しい八幡平市の魅力になるという所の少し考えて、戦略に入ってくるとすごく深みが出てくると感じがする。ご検討頂きたいと思う。</p> <p>全体を通じてのまだご発言していない方お話しして下さい。</p> <p>地元企業の合同の入社式では、当行の研究所で新入社員の研修会を行っていることもあり、入社した方のマナーなどの研修会はお手伝いできる気がした。地域の活性化としては、修学旅行生の民泊を推進し各家庭での受入れを要請してはどうか。ご夫婦2人などで中学生など3、4人ずつ受け入れる。5,000~6,000円の補助で、農業体験などしてもらおうといったことを行っているところがある。小さい規模だが楽しみにしている学校が増えてきて、関係交流の深いつながりになる。</p>
<p>委員</p>	<p>自社がもっと発信するべきことがあると感じた。人口ビジョンで、女性の働き盛りの方が多く出て行ってしまふのが気になった。これに対しての第2期の施策では変わらない気がした。行政としても手を打ちづらいところだろうと思う。民間でやっていった方がいいのか、商工会など横のつながりをうまく生かすのがいいのかなと感じた。</p>
<p>市長</p>	<p>20代30代の女性が多く出て行っているデータがある。本音で言えばこの地にとどめるのが課題だが、行政が表立って言えるものではない。智慧を絞って、合同の入社式などを通じて近づけるのが良いのではないかと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>雇用の問題のため一概に言えないが、大学で教えていると若い女性はずっと働きたい気持ちがあるが、市に残り切れていない。男性は都会の大きな会社を目指す。女性は結婚、出産しても地域で働き続けたい。経営者とその辺の対応が遅れている自覚を持って欲しい。経営者と女性の認識がマッチングしているかが大きな課題となる。しっかりタイプをみながらやっていきたい。</p>
<p>副会長</p>	<p>いろいろ感じる事があったが、合同の入社式から、人の交流まで話が進んだ中で環境の整備が改めて必要と感じた。日常的な業務の定型化、マニュアル化は中途就職の定着に重要であるとともに、ISOなどのマネジメント認証制度の取得を行政が支援してもよい気がした。事業承継でも重要になると思う。M&Aの事例から日常の仕事がすんなり受け渡しできるかが重要。行政の果たすべき役割が大きい。</p> <p>ふるさと納税の活用を入れても良いのではないか。</p> <p>安比スキーリゾートの可能性を打ち出すといいのではと考えた。全国的に雪不足の中で、白馬で聞いても、ニセコで聞いても岩手がうらやましいとの声が聞こえてくる。温暖化で将来の危機感がある。世界的に価値が見直される時が来る。テコ入れがもっとあってしかるべき。</p> <p>郷土芸能、伝統工芸、趣味嗜好とか八幡平に生きづく生活文化、食文化とか、町歩きとか含めてプログラム化し、体験交流プログラムの充実があるとよい。複数あるプログラムの博覧会みたいなことを行政のバックアップでやるべきではないか。ガイドの養成やプログラムの改善、プログラムをひとまとめにしたガイドブック、観光パ</p>

	<p>ソフレット。不特定多数の人に配るチラシとは違う、体験交流型の八幡平を尋ねる人々に対して、導くためのツールとしてあると良い。印刷物、出版物はお金がかかるが、プログラムの提供者が50人、60人集まれば必ず形になる。事業計画づくりの手伝いは私がやりたい。計画がまとまったら是非採択して頂きたい。</p> <p>ナイトタイムエコノミーの充実において、八幡平市で飲食、宿泊の消費はまだまだ。特に飲食で落とすお金がまだまだ不十分。飲食業等の起業、創業等も凶ってはいかがか。鳥根県の邑南町の事例で地域おこし協力隊制度を上手く活用している。町内で飲食業を起業、創業したい人達を地域おこし協力隊で募集、東京でチラシを配り、人を集めている事例です。集まった人は協力隊としての業務と残った時間を使用して飲食業で開業するための修行をするという建付け。総務省から出る人件費、事業費をまとめて一流シェフを招聘し、人材育成に結び付ける。協力隊の卒業生の定着も図るという事例もある。関心があれば、邑南町を調べて、成果を収めている事例として、ぜひ市内でもそれに続くようにしても悪くないと思う。</p> <p>広域連携は広域8市町の中の枠組みを前提としているのか。観光で訪れる人達は行政区分関係なく鹿角と八幡平を一気に回ることから、定住自立圏構想がある中で、盛岡の下にぶら下がるのではなく、一戸町、雫石、県境またいで鹿角と手軽に利用できる、県をまたいでの発展、可能性に触れてもいいのではないかと感じた。</p> <p>今日頂いた意見は意見として踏襲し、基本的な考え方はこれで進めさせて頂く。委員の意見も中に入れ込んで、内容を厚くし、次回の委員会で、シェアする。</p> <p>貴重な意見をすごく頂いた。ただ、これを全部網羅すると市の財政が三回もパンクしないとできないことである。網羅してもどういう風な事業をもっていかにより違う。KPI、最終的に事業をして数値的にどうなるのか、KPIをはっきり出せるような政策にしないと言葉だけではまやかしの評価になる。次回までに整理をさせて頂きたい。</p> <p>去年の10月から市直営でふるさと納税業務は再開した。当面、市直営で行うところで進めている。改めて再構築した上で、委託も考えているが、反省点も含め有効な所は継続しながら再構築を進めていきたい。</p> <p>今後の進め方は、今回頂いた色々なご意見を元に整理をし、パブリックコメント並びに議会への説明を行い、素案を修正したうえで3回目の有識者会議に示していきたいと考えている。</p>
会長	
副市長	
事務局	

○ 八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議

(委員)

(敬称略)

各界別	団体別	職名	氏名	備考
産（５名）	商工会青年部	青年部	遠藤 忠寿	
	観光協会	理事	石田 秀悦	欠席
	企業懇談会	(株)サラダファーム	田村 恵	欠席
	J A新しいわて青年部	青年部西根中央支部長	田村 和大	
	N P O 法人七時雨いきいきネットワーク		畠山 潤	
官（２名）	盛岡広域振興局	副局長	岩渕 謙悦	欠席
	盛岡公共職業安定所	所長	四役 富雄	欠席
学（３名）	平舘高等学校	副校長	中舘 豊	
	岩手大学	学長特別補佐・特任教授	小野寺 純治	
	岩手県立大学総合政策学部		山本 健	
金（３名）	岩手銀行平舘支店	支店長	布田 学	
	北日本銀行平舘支店	支店長	斉藤 幹範	
	盛岡信用金庫西根支店	副支店長	牛抱 昭	欠席
労（１名）	社会福祉法人安代会	事務局長	畠山 勇司	
言（１名）	岩手日報社	八幡平支局長	及川 慶修	
市民 （５名）	松野保育所父母会	父母会長	大巻 飛鳥	欠席
	大更小学校 P T A	会長	遠藤 武敬	
	松尾中学校 P T A	会長	林 祐介	
	地域おこし協力隊	O G	阿部 文子	
	地域おこし協力隊	隊員	松本 侑子	欠席
計（２０名）				

(市)

職名	氏名	職名	氏名
市長	田村 正彦	地域福祉課長	松村 錦一
副市長	岡田 久	健康福祉課長	村上 直樹
教育長	星 俊也	農林課	田村 泰彦
総務課長補佐	佐々木 仁	商工観光課長	遠藤 幸宏
地域振興課長	渡辺 信	教育総務課長	工藤 久志
市民課長	小笠原 文彦		
事務局（企画財政課）			
（事務局長）企画財政課長	佐々木 孝弘	主任	香川 豊
企画財政課長補佐	畠山 健一		
地域戦略係長	関 貴之		
主任	坂本 幸子		